

北海道スペースポートの取組



2024年7月

北海道

北海道スペースポート (HOSPO) の歴史



時期	概要
1985年	大樹町、航空宇宙産業基地誘致運動を開始。「宇宙のまちづくり」を進める。
1986年	道が新長期総合計画戦略プロジェクトに北海道航空宇宙産業基地構想を盛り込む。
1995年	大樹町、多目的航空公園を整備。1,000m滑走路完成。
2002年	北海道大学、植松電機などがハイブリッドロケットCAMUI 1号機打上げ。
2003年	JAXAの実験施設整備。
2013年	インターステラテクノロジズ、事業所を大樹町に開所。
2019年	インターステラテクノロジズ、MOMO3号機の宇宙空間への打上げに成功。民間企業としては日本初。
2021年	スペースコタン株式会社設立。HOSPO本格稼働開始。インターステラテクノロジズ、MOMO7号機、6号機を1ヶ月間に2機連続して打上げに成功。
2022年	大樹町、北海道スペースポートのLC-1整備と滑走路延伸に着手。

北海道スペースポートのポテンシャル（北海道スペースポートの強み）

- 北海道スペースポートは、世界に誇れる立地環境にあり、既に宇宙空間への打上げの実績を持つとともに、**多機種高頻度打上げに対応するポテンシャル**を有する。

1

国内**3**つ目の射場
としての実績
約**40**年の
宇宙のまちづくり
の実績



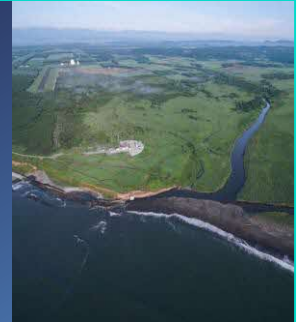
2

高緯度 かつ
東と**南**が
海で開かれている
軌道傾斜角が広い



3

広大な敷地による
拡張性の高さ



4

日本の北端にあるため
海路と空路が
混み合っておらず
打上げウインドウの
確保性が高い



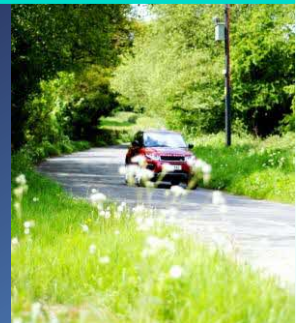
5

圧倒的な
十勝晴れ



6

アクセスの良さと
快適な**周辺環境**



※出展：SPACE COTAN

北海道スペースポートの目指す姿

整備前の状況



LC-1整備後



※LC = Launch Complex
= 射場 (射点・地上設備)

将来の目指す姿



※出展：大樹町、SPACE COTAN

- 多機種、多種多様な打上げに対応する複数射点・地上設備
- P2Pに対応可能な滑走路
- 農林水産業、製造業、観光業など多様な産業への経済的波及
- 宇宙分野の研究・企業の集積や人材育成

宇宙版シリコンバレーの実現

地域の活性化

- 「宇宙のまちづくり」で地域が活性化。
- インターステラテクノロジズの事業拡大や北海道スペースポートの開発が、地域の盛り上げの原動力に。

60年ぶり増

大樹町の人口
(2022年度)

約 37% 増

大樹町への
観光入込客数
(2016年から3年間)

全国 2 位

企業版ふるさと納税
大樹町への寄付金額
(2023年度)



※出展：大樹町、十勝商工会、IST

インターステラテクノロジズのロケット開発の加速

- インターステラテクノロジズは2023年9月、SBIRに採択され、小型人工衛星打上げロケット「ZERO」の開発を加速。



※出展：IST

北海道スペースポートの整備

- 大樹町は企業版ふるさと納税や国の拠点整備交付金を活用し、LC-1射場を整備中。
- 革新的将来宇宙輸送システムや国内外の宇宙機に対応した、**開かれたスペースポートの整備に向けてはさらなる拡充が必要。**
- 資材人件費の高騰、ニーズ拡大や設計詳細化に伴う**追加資金の調達**が課題。



LC-0 (運用中)



現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターステラテクノロジズが整備、運用する自社設備。 ・ 大樹町が土地を貸し付け中。 ・ 観測ロケットMOMO用射点、エンジン試験設備あり。
-----	--

LC-1 (整備中)



現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内閣府の拠点整備交付金及び企業版ふるさと納税による官民の支援を得て大樹町が整備中。
ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ SBIR採択事業者の民間ロケットが利用予定。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資材高騰等により事業費が増加し町として対応に苦慮。 ・ 基礎インフラやプラント機能完備に向け追加資金を調達中。

LC-2 (構想中)



現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ LC-1の整備運営で得たノウハウを最大限に活用し、軌道投入機等の高頻度利用に対応する射場として構想中。
ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロケット実験機や民間ロケットの高頻度打上げニーズが存在。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ インフラ整備については、現状支援メニューが存在しない。

※出展：大樹町、SPACE COTAN、IST

道内の産学官関係者が連携し、HOSPOの将来に必要な機能の検討や国の競争的資金の獲得に向けた地域の体制整備などを実施。
道はそのコーディネーター役を担い、道内関係者の連携体制の強化を促進。

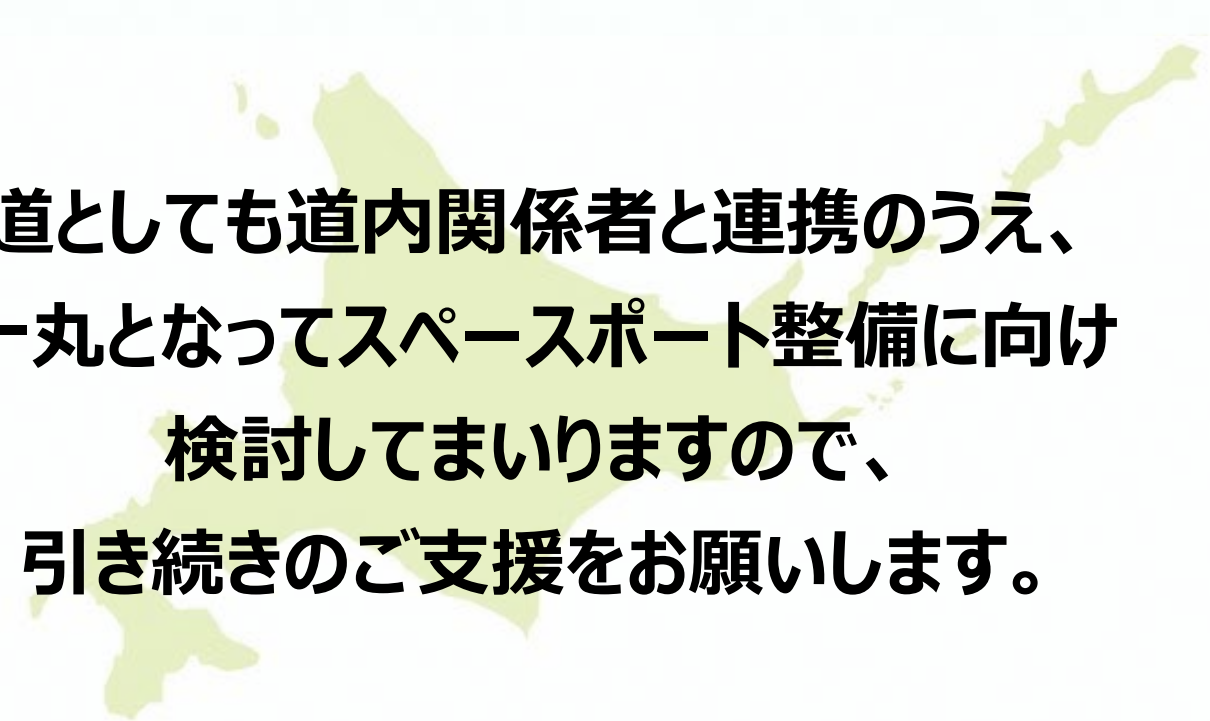
【参考】宇宙基本計画工程表の改訂に向けた重点事項（抜粋）

宇宙基本計画工程表改訂に向けた重点事項（令和6年5月宇宙開発戦略本部決定）

（宇宙活動を支える総合的基盤の強化）

自立的な宇宙活動の維持のためには、**高頻度な打上げと、より大きな輸送能力、より安価な打上げ価格を実現する宇宙輸送システム**を、**基幹ロケットと民間ロケットの開発、拠点となる射場・スペースポート整備への支援等**を通じて、**我が国全体で構築することにより、2030年代前半までに我が国としての打上げ能力を年間30件程度確保することが必要**である。加えて、ロケットの即応的な打上げや海外衛星の打上げ需要の取り込み、サブオービタル飛行を始めとした新たな宇宙輸送ビジネスを実現させるために必要な制度環境の整備に取り組む必要がある。

北海道がわが国の 「宇宙活動を支える基盤の強化」に貢献



道としても道内関係者と連携のうえ、
一丸となってスペースポート整備に向け
検討してまいりますので、
引き続きのご支援をお願いします。